第３回　県庁別館展示施設整備検討委員会　概要

１　日　時　　平成２４年１０月２６日（金）午後１時２０分～３時５０分
２　場　所　　県議会議事堂 地下会議室
３　出席者
　委　員：江宮隆之委員長、齋藤康彦委員、早川源委員、萩原三雄委員、古屋知子委員
　事務局：平井管財課長、鈴木総務部主幹、横森総括課長補佐
　　髙橋学術文化財課長、中山博物館学芸課長、
　　管財課４名、学術文化財課２名、博物館１名

４　次　第
（１）　開 会
（２）　議 事
（３）　その他
（４）　閉 会

５　議事の概要
（１）展示施設のコンセプト及び名称について
・　本来、展示施設や資料館は、物の資料から歴史を再構築するというのが基本であるが、この施設は、人から再構築しよう、歴史を見ようということが一番大きなコンセプト。人を中心に、山梨を考えてみようということに焦点を当てる。
・　人物の言葉について、言葉を生み出すのは、その人物の生き様である。人物の生き様から、その人物像に迫る。特に子どもたちに、そういった人達がどうしてその業績を、あるいはその結果をもたらすに至ったかという経緯を考えさせるような、そういう展示にしてはどうか。
・　山梨の大きな動きを見せながら、そこに人物が入っていく。その人物が、その歴史の中でどういう役割を果たしたのか、どういう動きをしたのか、なぜその人物が生まれるに至ったのかということを見せる必要がある。
・　先人が残した言葉から歴史を探っていくという、言葉に注目した点は非常にすばらしいが、背景や生き様といったところも問題にする必要がある。
・　言葉を用いることは、見る側の視点としてわかりやすくなる。この人物は、何年に生まれてとするよりも、何をしたかの方が大事。それに特化していくことはとても大事なこと。
・　名称は、コンパクトで分かりやすいものがよい。
・　「かん」という言葉に集約させているのは面白い発想である。
・　「やまなし・先人・かん」という仮称で進める。

（2）ゾーニング及び展示手法・構成について

- そつのない展示とともに、意外性やおもしろさのあるものを作りたい。意外性やおもしろみに子どもは飛び付く。
- コンセプトに沿って、常に紹介しなければいけないというような人物があるとすれば、常設的にやるところと、テーマ性を持ったやり方を組み合わせるのはどうか。
- 動画も含めてビジュアルや参加型など、上手に見せる部分というのが大事。そつのない展示をしなければいけないが、県民全体、もしくは観光客を考えたときには、すぐに分かるということも大事。
- トンネル風の造作は非常におもしろい。
- トンネルを掘った多くの人々をうまく出せないか。先頭に立って実現した人もいるが、その背景には、様々な人々の苦労があったかもしれない。そういうものも少し含めていただきたい。
- 定期的に展示が変わるような仕組みや、テーマを変えて動かせるようなことができないか。

（3）対象人物について

- 今まで分かっている人から出発するのもいいが、掘り起こしも大事。
- この人物には、こういう人達が連なっているということを紹介していくのも大事。
- 大きなことをやっているにもかかわらず知名度は低い、そういう人にきちんと光を当てなければいけないし、その苦労を伝えなければならない。
- ストーリーによって他の人物も入ってくるだろうし、「こういう人がいた」と気がつかせるということが、この施設の意味。そこを大事にしておきたい。
- その人の持っている特徴などを捉えてキャッチフレーズ的に出すということが大事。
- 人物によっては多分野にわたっている。従来とまた違った見方もできるのではないかというところを考えていただくということが必要。

（4）運営・管理について

- 運営について大事なのは、そこで人物像などをきちんと説明できる人が必要であること。
- 甲府城の稲荷櫓や鉄門、防災新館の石垣展示室などを合わせ説明できるような人達を、組織化、システム化することも必要。
- 美術館の展示案内はほとんど協力会が行っており、協力員はボランティアだが、そういうシステムを採り入れるのもよい。
- 楽しい雰囲気で、みんなが気軽に立ち寄れる雰囲気にしてほしい。写真撮影もできるだけ許してほしい。